

令和2年度一般会計決算の概要

※（ ）内は前年度の数値、百万円未満切捨て

1 収支の状況

- (1) 令和2年度一般会計決算額については、歳入が1,552億6,200万円、歳出が1,504億6,800万円で、前年度との比較では、歳入が6.1% (+11.1%)、歳出が5.6% (+10.8%)のプラスとなった。歳入は、平成26年度以来7年連続で1,200億円を上回り、歳入、歳出とも初めて1,500億円を超え過去最高額となった。
- (2) 決算額の予算現額に対する収入率は94.1% (92.7%)、執行率は91.2% (90.3%)で、前年度と比べ収入率は1.4ポイントの増、執行率も0.9ポイントの増となった。
- (3) 形式収支は47億9,400万円で、前年度と比べ9億5,600万円の増、また、実質収支は繰越明許費繰越額9億3,100万円を差し引いた38億6,200万円で、前年度と比べ6億500万円の増、過去10年間で最多となった。

なお、平成24年度決算から実質収支額全額を地方自治法第233条の2の規定による基金繰入額としているため、翌年度への繰越額は0円である。

2 歳入の状況

- (1) 特別区税は、収入済額348億2,500万円で過去最高となった。対前年度比は2.2%の増 (+3.1%)、額では7億4,600万円の増で、歳入全体に占める構成比は22.4% (23.3%)となった。
- (2) 特別区交付金は、収入済額297億8,000万円で、対前年度比は11.7%の減 (+3.3%)、額では39億5,300万円の減で、構成比は19.2% (23.1%)となった。
- (3) 国庫支出金は、収入済額531億200万円で、対前年度比は132.8%の増 (+8.1%)、額では302億9,500万円の増で、構成比は34.2% (15.6%)となった。

3 歳出の状況

- (1) 義務的経費については、支出済額647億9,000万円で、対前年度比プラス7.4% (+0.3%)、額では44億4,400万円の増となった。また、歳出全体に占める構成比は43.1% (42.4%)で、前年度と比べ0.7ポイントの増となった。
このうち、人件費は239億5,100万円で、対前年度比プラス10.6% (Δ 1.4%)、額では23億400万円の増、構成比は15.9% (15.2%)となった。
また、扶助費は376億7,000万円で、対前年度比プラス4.3% (+5.8%)、額では15億6,700万円の増となった。構成比は25.0% (25.3%)となった。
公債費は31億6,800万円で、対前年度比プラス22.1% (Δ 36.2%)、額では5億7,200万円の増で、構成比は2.1% (1.8%)となった。
- (2) 投資的経費については、支出済額135億5,500万円で、対前年度比マイナス64.4% (+123.0%)、額では245億3,900万円の減で、構成比は9.0% (26.7%)となった。
- (3) その他の経費については、支出済額721億2,200万円で、対前年度比プラス63.8% (Δ 14.3%)、額では281億300万円の増で、構成比は47.9% (30.9%)となった。